

自然環境整備計画(国定公園等整備事業)  
【平成31年度～令和5年度】

みやぎけん  
宮城県

平成30年12月  
変更 令和元年12月

## 自然環境整備計画(国定公園等整備事業)の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮城県	個別地域	蔵王国定公園(蔵王山地域)
-------	-----	------	---------------

計画期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度
------	--------------------

### 目標

- 目標1 老朽化した遊歩道を再整備することにより、公園利用者の安全性・利便性を向上させる。  
 目標2 登山道等の再整備により、周辺地域への立ち入りを防止し、踏み荒らし等による周辺の荒廃防止を図る。

### 目標設定の根拠

#### 個別地域の現状

- 宮城・山形両県の県境に連なる蔵王連峰は日本百名山の一つに数えられ、「お釜」を核とする雄大な景観と四季折々の豊かな自然環境を有し、さらに山頂付近まで車でのアクセスが可能なこともあり、本県を代表する景勝地となっている。
- また、蔵王連峰を南北に貫く面白山・刈田岳・硯石線(南・北蔵王縦走コース)は、比較的なだらかな勾配と眺望に恵まれ自然林が広がると共に随所に「お花畑」と呼ばれる湿原が分布していることから、登山者が集中する代表的な登山道となっている。
- 特に、南蔵王縦走コースの中間に位置し標高約1600mに広がる「芝草平」湿原は、約100haの面積を有し、亜高山帯の貴重な高山植物の宝庫であることから、景観スポットして人気を博している。
- 蔵王山は火山性微動発生するなど火山活動の高まりが見られ、御嶽山の噴火同様突発的に噴火する可能性があることから、万が一に備え御釜付近の登山者等利用者の避難対策が必要である。
- 蔵王エコーライン沿いに公衆トイレがあり、山頂付近まで車でのアクセスが可能なこともあり、観光客が多数利用している。万が一の場合に備えて避難する場所としても必要である。
- 芝草平は、蔵王山の山頂付近に位置し、周辺まで車でアクセス可能であり、芝草の大群落があることから、蔵王地域の主要な観光地の一つになっている。
- 登山道周辺では降雨等による土砂流出が発生し、荒廃が進み、さらには荒廃した登山道を登山者が避けて往来するため湿原地域へ立ち入ることとなり、その影響で踏圧化区域が広がり、植生の衰退が顕著化している状況である。

#### 課題

- 公園利用者の増加  
 近年の登山ブームにより中高年層を主体とした登山者が増加しており、土砂の浸食などによる登山道周辺の荒廃が進行している。  
 登山技術が未熟な登山者の割合が増加しており、浸食や土砂の流出により危険箇所が増加していることなど、登山道の安全性・快適性の向上が求められている。  
 また、木道施設は自然環境を保全するため整備されたが、施設の損傷等により周辺地域への立ち入り、踏み荒らし等による荒廃が懸念されるため、利用と保護の両立を目指す上で登山者の適正な利用誘導を行うとともに、登山者の意識啓発により植生帯への立入を抑制することが重要な課題となる。
- 迅速な避難対策・施設の不足  
 突発的な噴火等万が一に備え、観光客、登山者の迅速な避難対策・安全性の確保が求められている。

### 個別地域の整備方針

#### 方針に沿った主要な事業

- 整備方針1(円滑な利用と安全性の確保)
  - 老朽化したトイレを再整備することにより、観光客等の利便性向上を図るとともに、万が一に備え、避難できる施設とする。[A]
  - 老朽化して危険な歩道施設の再整備を行い、公園利用者の安全で快適な受入体制の向上を図る。[B]

- 1-1 刈田岳園地整備事業
  - 公衆トイレ(県)[A]
- 1-2 面白山・刈田岳・硯石線歩道整備事業[B]
- 1-4 秋山沢線歩道整備事業[B]

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
					基準年度	目標年度	
歩道等の利用者数	人	歩道等の整備による利用者数	観光客入込数	公園利用者の利便性の向上に関する指標とし、利用者数により達成したものとす。	477千人	平成28年度	501千人 令和5年度

### その他必要な事項

自然環境整備計画(国定公園等整備事業)の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮城県	個別地域	栗駒国定公園(栗駒山地域)
-------	-----	------	---------------

計画期間	平成 31 年度 ~ 令和 3 年度
------	--------------------

<p><b>目標</b></p> <p>目標1 老朽化した遊歩道を再整備することにより、公園利用者の安全性・利便性を向上させる。</p>
--

<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>個別地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栗駒国定公園は、奥羽山脈のほぼ中央に位置し、岩手・宮城・秋田・山形の4県にまたがっている。</li> <li>栗駒山地域は、栗駒山を主峰とする火山群でカルデラ、高原、渓谷などの優れた山岳景観を有している。</li> <li>片山地熱線は、鬼首の森林地区の中央にある間欠泉を有し、付近には鬼首レストハウス、吹上高原キャンプ場等の施設があり、周辺まで車でアクセス可能な人気の観光地となっている。</li> <li>湯浜線は、湯浜温泉から栗駒山頂までの比較的なだらかな勾配と眺望に恵まれた登山道で、特に中級者の登山客に人気のコースとなっている。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園利用者の増加 近年の登山ブームにより中高年層を主体とした登山者が増加しており、登山者の安全性・利便性の向上が求められている。 木道施設は、自然環境を保全するため整備されたが、施設の損傷等により周辺地域への立ち入り、踏み荒らし等による荒廃が懸念される。また、熱水等危険箇所への立ち入りを無くし、安全な探勝歩道を整備する必要がある。</li> <li>施設の老朽化 登山道及び遊歩道は、設置後10年以上経過した木造施設が大半で、さらに自然条件の厳しい場所に設置されていることから、老朽化が著しく、利用に支障をきたしている。</li> </ul>
--

<p><b>個別地域の整備方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化して危険な施設の再整備を行い、公園利用者の安全で快適な受入体制の向上を図る。</li> </ul>	<p><b>方針に沿った主要な事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1-3 片山地熱線歩道整備事業</li> <li>1-5 湯浜線歩道整備事業</li> </ul>
---	--

目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度		
歩道等の利用者数	人	歩道等の整備による利用者数	観光客入込数	公園利用者の利便性の向上に関する指標とし、利用者数により達成したものとする。	168千人	平成28年度	176千人	令和3年度

<p>その他必要な事項</p>
-----------------

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮城県	個別地域	国指定伊豆沼鳥獣保護区
-------	-----	------	-------------

計画期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度
------	--------------------

**目標**  
 昭和55年の夏に伊豆沼・内沼を襲った洪水は、ハスの長期冠水やマコモの流失等を引き起こし、抽水植物や沈水植物、浮葉植物など水生植物群落に大きなダメージを与えた。近年ではハスやヨシの群落は回復しているものの、マコモについては以前広大な群落が存在していた箇所土砂が堆積し陸地化が進行、ヤナギ等の木本類が侵入するとともに、マコモを好んで餌とするハクチョウの採食圧も重なり、未だ回復に至っていない。沈水植物についても、水の透明度が低く底質も改善していないことなどから、依然回復の兆しが見られない。また、カモ類の特定の種が減少したりマガンの飛来数が大幅に増加するなど、渡り鳥の生息種や飛来数にも変化が生じている。  
 平成21年10月に伊豆沼・内沼自然再生協議会で策定した「伊豆沼・内沼自然再生全体構想」では、昭和55年7月の洪水被害を受ける以前の頃の自然環境を取り戻すことを最終的な自然再生目標としている。この自然環境整備計画においては、自然再生全体構想の最終目標の実現に向け、まずは水生植物群落の修復・回復など、安定した生態系回復の端緒が形成されることを目指すこととする。

**目標設定の根拠**  
**個別地域の現状**  
 伊豆沼・内沼は宮城県北部の栗原市と登米市の市境の穀倉地帯に存し、面積491ha(伊豆沼369ha、内沼122ha)と県内最大の淡水湖沼であるとともに、平均水深が70~80cmと非常に浅いことが特徴である。以前から広大な遊水池であったが、戦前から戦後にかけて大規模な干拓が実施され、沼面積の約半分が埋め立てられ現在の姿となっている。厳冬期でも降雪量が比較的少なくかつ月平均気温が0℃を下回らず湖面の凍結も少ないため、ガンやハクチョウ等の渡り鳥にとって重要な越冬地となっており、その重要性は国際的にも高く評価され、昭和60年、釧路湿原に次いで本州初のラムサール条約指定湖沼となっている。  
 伊豆沼・内沼は昔から地域住民の生活と密接な関わりを持ちながら保全されてきた二次的自然であった。沼の水は農業用水として、植物は住民の食料や畜産飼料、農業用堆肥として、また魚介類は貴重なタンパク源として活用され、それらの活動を通じて沼が適切に保全・管理されてきた歴史がある。  
 しかし、周辺の都市化が進み、地域住民の生活様式や営農形態が変化するに伴って、沼の環境や生態系が変化している。人間と野生生物とが共存できる仕組みをどのように形成・維持していくかが大きな課題となっていることから、伊豆沼・内沼自然再生協議会で策定した「伊豆沼・内沼自然再生全体構想」に基づき、宮城県が自然再生事業を実施している。

**課題**  
 (1) 生息する生物種の減少と単純化  
 ガン類やオナガガモは増加しているものの、鳥類の飛来種が単純化。植生はハス、ヒシの専有面積が増加する反面、沈水植物が激減。また、オオクチバスの食害で在来小型魚介類及び魚をえさとするミコアイサ等が激減。  
 (2) 物理的湖沼環境の悪化  
 水質は過去40年ほど概ね横ばいで、CODの環境基準値を満たさず推移。底泥の巻き上がりなどによる透明度低下が沈水植物復元の妨げになっている。また、多様な生物の繁殖や生息場所となる湖岸域(エコトーン)の消失や、ハス由来の底質堆積等による浅底化も植生に影響。  
 (3) 地域住民と沼とが関わる機会の減少  
 昭和60年のラムサール条約登録指定以降、「伊豆沼・内沼には手を付けない、付けてはいけない」といった誤解が発生。周辺住民の生活様式も変化。

個別地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性の保全と再生のために、激減している水生植物の増殖及び移殖を行う。また、湖岸植生の浸食防止の柵や、エコトーンの創出のための柵の設置等を行う。[A]</li> <li>健全な水環境を確保するため、水質改善効果を調査し、水生植物増加の一助とする。[B]</li> </ul>	2-1 伊豆沼・内沼地区自然再生事業 ・水生植物保全整備及び湖岸植生保全整備[A] ・水質改善効果検討調査[B]

**目標を定量化する指標**

指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	目標値			
					従前値	基準年度	目標年度	
エコトーンの分布面積	ha	多様な生物の生息地となるエコトーン的面積	モニタリング調査 植生調査	湖沼生態系に大きな影響を及ぼすエコトーンの復元に関する指標とし、自然再生事業の実施により達成される。	0.0	H19	0.1	R5

**その他必要な事項**  
 特になし

(国定公園等整備事業)交付対象事業等一覧表(1) (金額の単位は千円)

交付対象事業費	384,797	交付限度額	173,158
---------	---------	-------	---------

1 国定公園に係る事業(生態系維持回復事業を含む)

番号	公園名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(H31年度)	2年目(R2年度)	3年目(R3年度)	4年目(R4年度)	5年目(R5年度)
1-1	蔵王国定公園	刈田岳園地整備事業	シチカシユクマチ 七ヶ宿町	宮城県	90,000	H31	R2	90,000	49,500	0	2,000	88,000			
1-2	蔵王国定公園	面白山・刈田岳・硯石線歩道整備事業	シチカシユクマチ 七ヶ宿町	宮城県	30,700	H31	R2	30,700	16,885	0	5,200	25,500			
1-3	栗駒国定公園	片山地熱線歩道整備事業	オオサキシ 大崎市	宮城県	92,500	H31	R3	92,500	50,875	0	30,500	31,000	31,000		
1-4	蔵王国定公園	秋山沢線歩道整備事業	ザオウマチ 蔵王町	宮城県	60,000	R3	R5	60,000	33,000	0	0	0	6,000	24,000	30,000
1-5	栗駒国定公園	湯浜線歩道整備事業	クリハラシ 栗原市	宮城県	24,100	R2	R2	24,100	13,255	0	0	24,100			
					297,300			297,300	163,515	0	37,700	168,600	37,000	24,000	30,000

2 国指定鳥獣保護区に係る事業(国定公園外において行われる自然再生施設の整備事業であって、平成18年度以前からの継続事業であるもの)

番号	国指定鳥獣保護区名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(H31年度)	2年目(R2年度)	3年目(R3年度)	4年目(R4年度)	5年目(R5年度)
2-1	国指定伊豆沼鳥獣保護区	伊豆沼・内沼地区自然再生事業	とめし・くりほらし 登米市・栗原市	宮城県	378,579	H18	R11	87,497	48,124	0	15,497	18,000	18,000	18,000	18,000
					378,579			87,497	48,124	0	15,497	18,000	18,000	18,000	18,000

3 長距離自然歩道に係る事業(国立公園及び国定公園内の事業は除く)

番号	長距離自然歩道名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(年度)	2年目(年度)	3年目(年度)	4年目(年度)	5年目(年度)
					0			0	0	0	0	0	0	0	0

4 合計

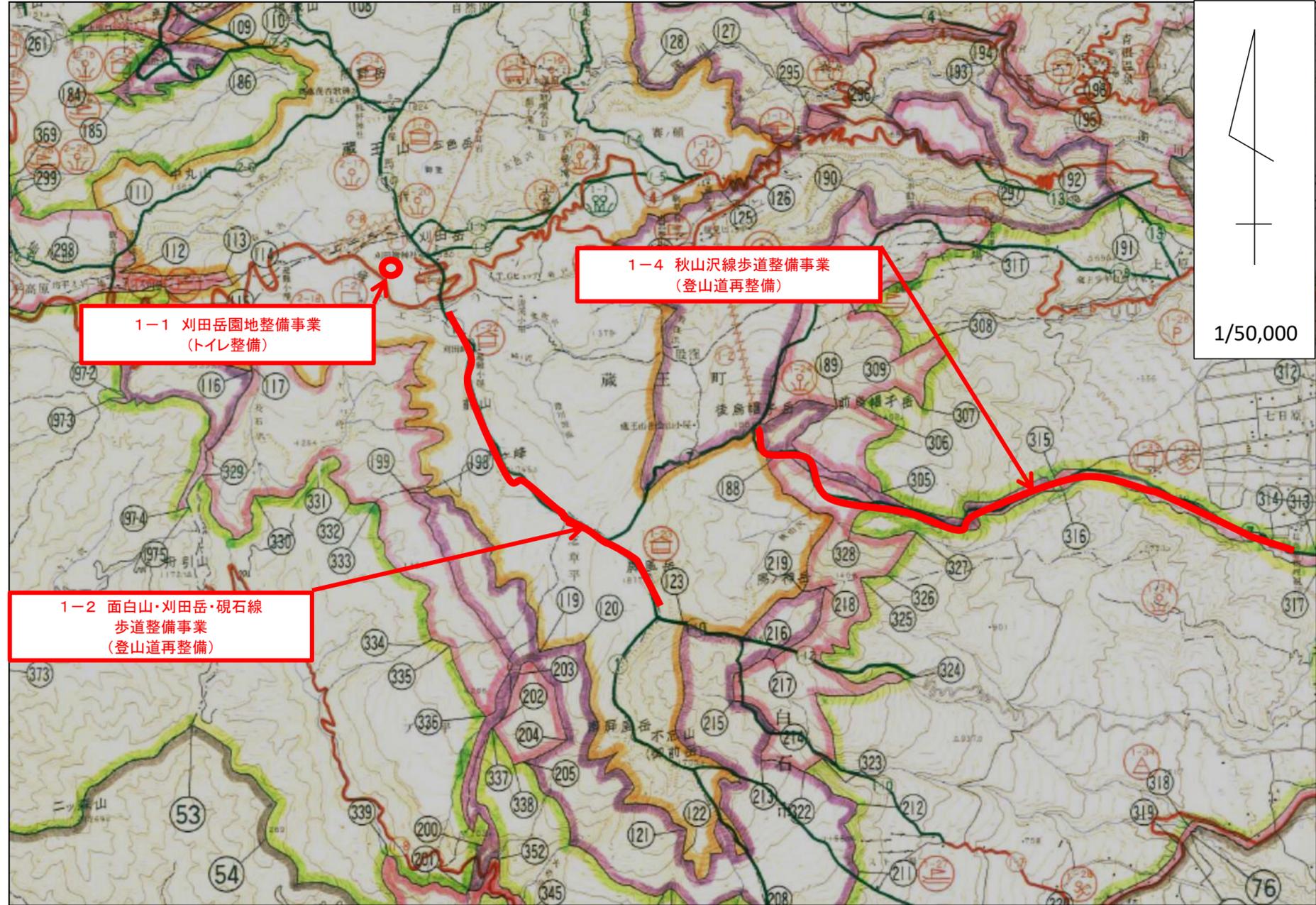
番号	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分					
					開始年度	終了年度				1年目(年度)	2年目(年度)	3年目(年度)	4年目(年度)	5年目(年度)	
					675,879			384,797	211,639	0	53,197	186,600	55,000	42,000	48,000



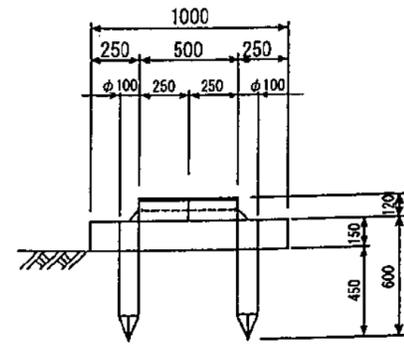
(参考)自然環境整備計画(宮城県)の概要図

個別地域	蔵王国定公園(蔵王山地域)	所在地	しちしやくまち ざおうまち 七ヶ宿町・蔵王町
------	---------------	-----	---------------------------

※ 対象地域の図面を添付すること。



正面図

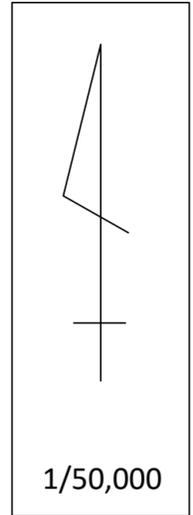
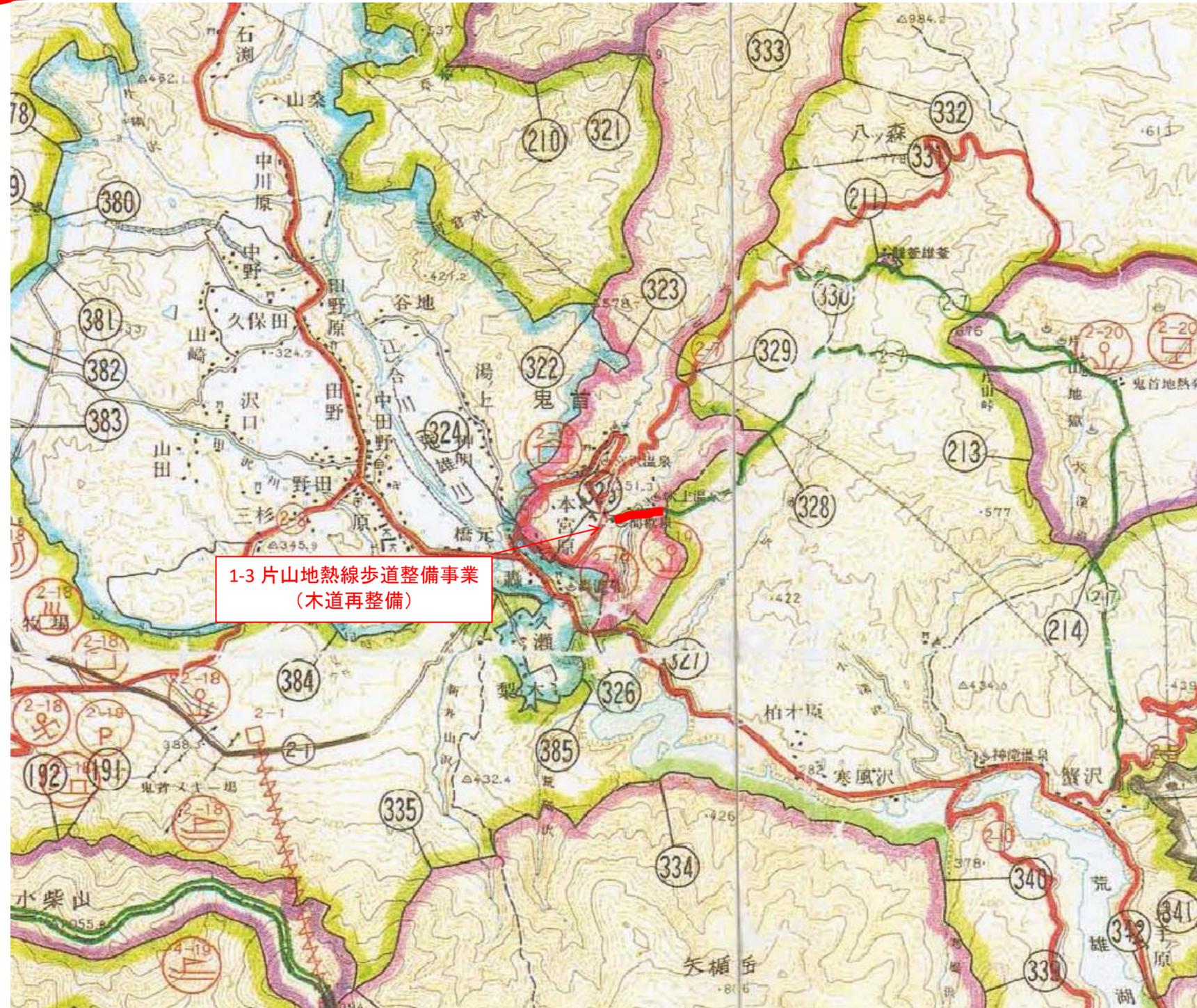
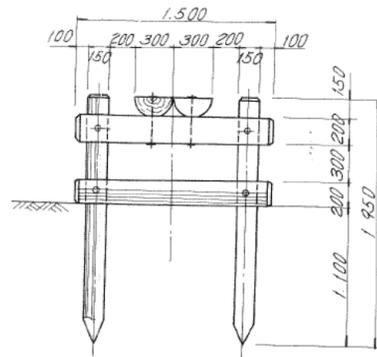


標準断面図

(参考) 自然環境整備計画(宮城県)の概要図

個別地域	栗駒国定公園(栗駒山地域)	所在地	おおきし 大崎市
------	---------------	-----	-------------

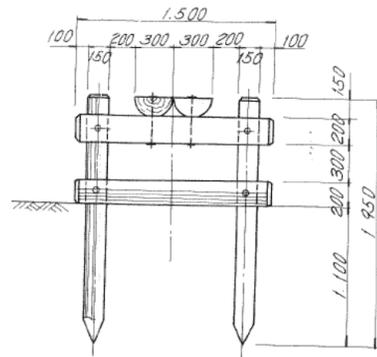
※ 対象地域の図面を添付すること。



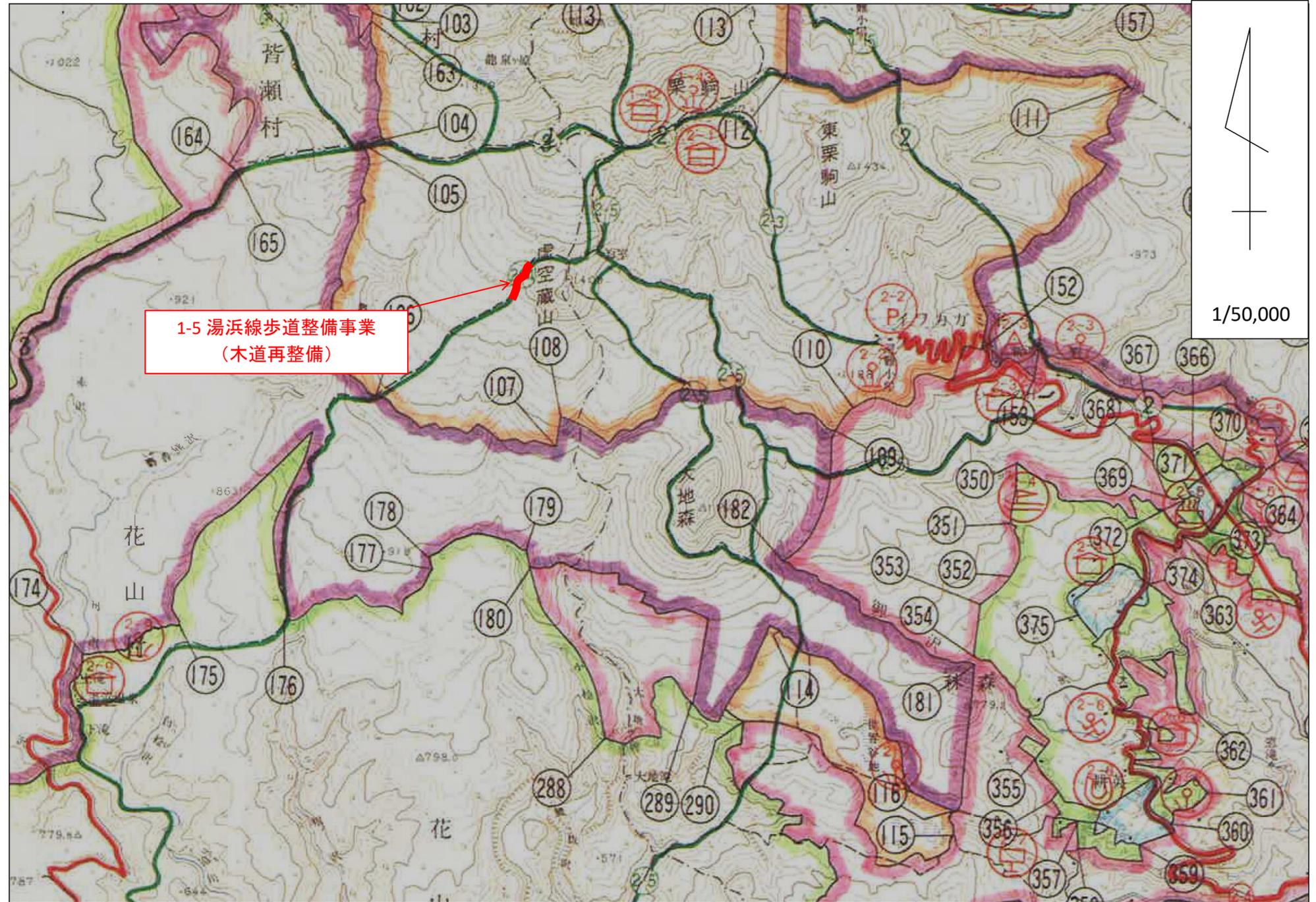
(参考) 自然環境整備計画(宮城県)の概要図

個別地域	栗駒国定公園(栗駒山地域)	所在地	宮城県 栗原市
------	---------------	-----	------------

※ 対象地域の図面を添付すること。



標準断面図



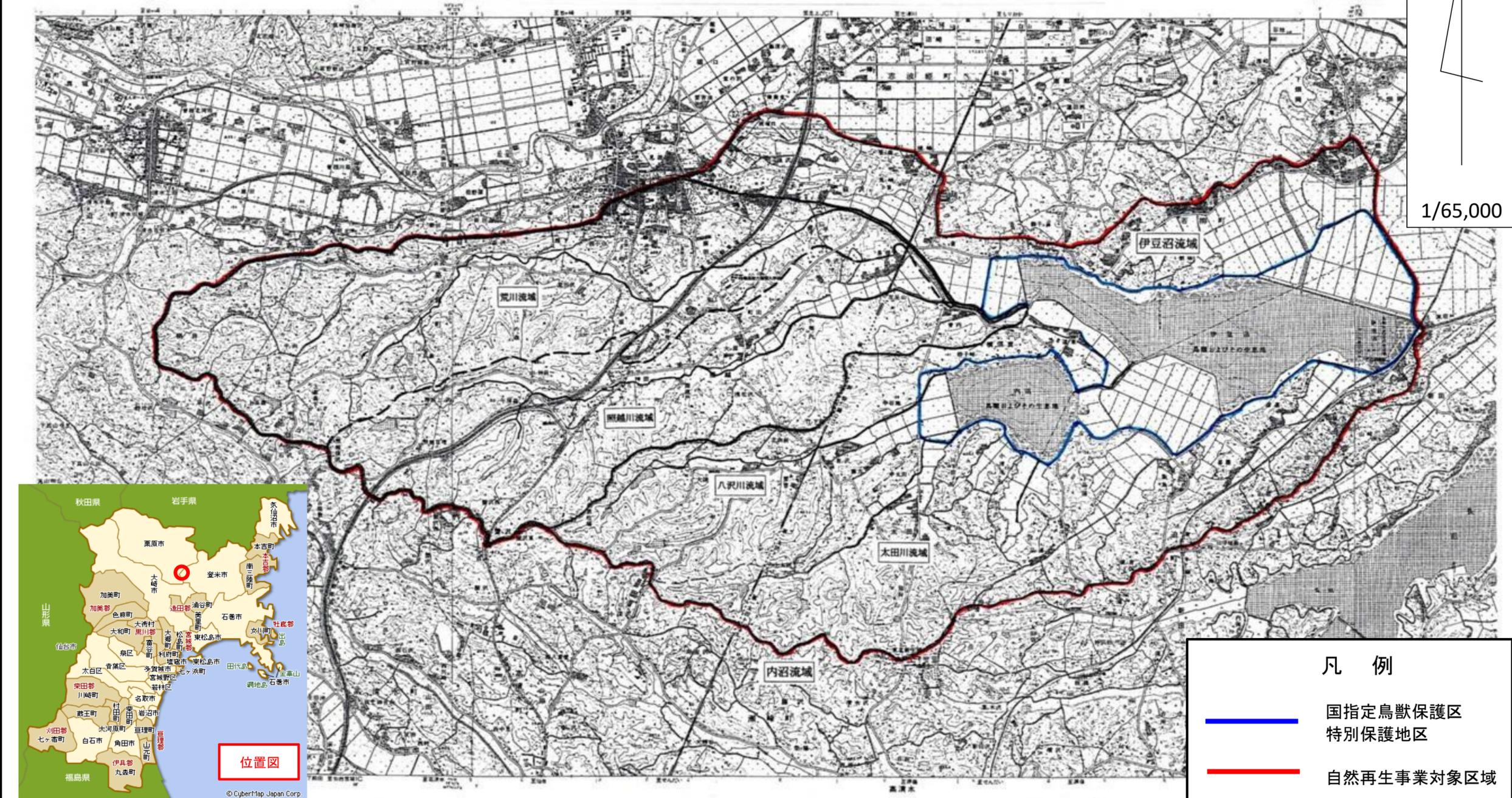
(参考)自然環境整備計画(宮城県)の概要図

個別地域	国指定伊豆沼鳥獣保護区	所在地	とめし・くりはらし 登米市・栗原市
------	-------------	-----	----------------------

※ 対象地域の図面を添付すること。

伊豆沼・内沼自然再生事業区域図

1/65,000



凡例

- 国指定鳥獣保護区  
特別保護地区
- 自然再生事業対象区域

位置図

© CyberMap Japan Corp.